

# 子ども食堂利用者の宗教イメージと主催者の配慮 —名古屋市内で天理教が運営する3つの子ども食堂を対象に—

梅田 藍子

## 論文趣旨

本稿の目的は、現代の日本社会が宗教に対する関心の薄さや、どこか宗教に対して恐怖心を抱いているのではないかという筆者の疑問を元に、宗教施設が運営する子ども食堂に通う人にアンケート調査、運営者の方にインタビュー調査を行い、どのように宗教のことを受け入れているのかを明らかにすることである。調査方法として、名古屋市内にある3つの天理教施設が運営する子ども食堂、「おかださんの台所」「ほんあい子ども食堂 MOGU」「なかよしごはん」に宗教に対するイメージ調査を実施する。また、運営者の方にも宗教施設が運営する子ども食堂ということで何か不利になった経験や率直に宗教施設が運営する子ども食堂についてどう思っているのかをインタビューしていく。

## 第1章 私の無知による宗教の壁と宗教施設が運営する子ども食堂

全国の子ども食堂の中で開催空間が宗教施設と表記してある子ども食堂は12%の割合であった<sup>10)</sup>。その中で私が調査した宗教は天理教である。天理教が関わって運営している子ども食堂の数は約100箇所を超える<sup>11)</sup>。その中で筆者が学生時代にボランティアスタッフとして参加させていただいていた「おかださんの台所」「ほんあい子ども食堂 MOGU」ゼミで講義していただき、同ゼミ生がボランティアスタッフとして参加させていただいていた「なかよしごはん」の3つの子ども食堂の参加者にアンケート調査を行い、子ども食堂への参加者がどのようなイメージを抱いているのかを明らかにしていく。また、3つの子ども食堂の運営者にもインタビューを行い、宗教施設が運営している子ども食堂で何か不利に感じた経験や率直に宗教関連が運営する子ども食堂にどのような思いを抱いているのかも明らかにしていく。

2021年には6007箇所にも数を広げた子ども食堂は様々なものがある<sup>12)</sup>。「気まぐれ八百屋だんだん」のようにお店の一角を子ども食堂にしているところや、自宅をそのまま子ども食堂として使用しているところ、公民館などを利用して子ども食堂を開催しているところ、更に宗教関係でお寺などを子ども食堂としているところなど様々な開催模様がある。この施設に共通しているものが「社会的インフラ」という仕組みである。社会的インフラとは社会や生活を支える公共的な基盤や仕組みのことである。電気、ガス、水道はじめ、道路、鉄道などの交通設備、福祉施設、電話やインターネットといった通信サービスなどの私たちの生活

10) 安福英希 森本富裕菜 前田博子 運営主体および空間からみた子ども食堂の分類に関する研究 豊田工業高等専門学校研究紀要 第50号 2017。なお、2021年末時点で、全国の子ども食堂の数は6007箇所である。そのうち、宗教施設が運営する子ども食堂の正確な数について、2022年1月11日、「むすびえ」に問い合わせたが、「まだ正確な情報が開示できる段階ではない」という回答を得たことを記しておく。

11) 「子ども食堂ニコニコごはん」前田道明さん、さかえさんインタビュー記録 2021年10月28日

12) NPO法人 全国こども食堂支援センターむすびえ 2021年12月22日

にとって欠かせない基盤となる設備サービスのことを示す<sup>13)</sup>。社会的インフラは上で述べたような抽象的なものも存在するが、図書館や公園、遊び場、学校、運動場、市民農園など集団生活を条件づける物理的な場所のことも示している。社会的インフラをきちんとデザインして、構築し、維持し、投資をすれば私たちはコミュニティーとしても、個人としても、幅広い恩恵を受けることができる。逆にこれを怠れば大きな代償を受けることになる<sup>14)</sup>。社会的インフラは地域の特徴を現わしているものであると言える。社会的インフラの基盤がしっかりしている地域であれば、その地域のコミュニティーの関係性は良好なものであると言えるだろう。逆に社会的インフラの基盤がしっかりとしていなければ、その地域のコミュニティーの繋がりはあまりよくないものだともいえる。その社会的インフラを活用しながら活動している子ども食堂はたくさんある。子ども食堂は地域の新たな居場所のような場所を目指して作られているところが多い。つまり、社会的インフラを大切にしているとも言えるであろう。

本稿が着目するのは宗教施設が運営する子ども食堂である。宗教施設と聞いて、思い浮かべるのは教会やお寺などを想像する人が多いだろう。教会やお寺というのは、社会的インフラのその他の施設、公民館や福祉施設に比べるとどこか近寄りがたいイメージを持ってしまうことがあると思う。その理由として、2018年のNHK調査を示す。仏教31%、神道3%、キリスト教1%、その他1%、無回答2%、信仰宗教なし62%という結果が得られている<sup>15)</sup>。約6割の日本人が宗教を信仰していないということが分かった。更に2008年の世論調査では、何かしらの宗教を信仰していると回答した人は36%であった。それに加えて信仰心があるかどうかの質問を信仰者に聞いてみたところ、2008年の調査結果では信仰心が「ある」と回答した人は33%なのに対して、2018年の調査結果では26%に減少していることがわかっている。この結果から読み取れることは信仰者の割合としては2018年もほとんど変化はしていないが、何かしらの宗教を信仰している人と回答した人の中でも信仰心を持つ人が少なくなっていることがわかる。以上のことから日本人が宗教への関心が薄いものであると言える。

教会やお寺が他の施設に比べると近寄りがたいと思われる理由としてもう1つあげることができる。それは宗教を報道するメディアの存在である。宗教が軸になり事件が発生した事例はいくつか挙げることができる。その中でもひととき有名なのが、1995年3月20日に東京都で発生した同時多発テロ事件の「地下鉄駅構内毒物使用多数殺人事件」である。この事件は宗教団体のオウム真理教によって起こされたテロ事件であり、発生当時生まれていない筆者でも知っている有名な事件である。テレビなどのメディアで宗教のことが放送される内容としては、ほとんどが凶悪な事件などであり、宗教の良い行いや考えが放送されることはあまりないと思う。なぜなら、日本の宗教は信仰宗教がないと答える人が6割を超えているため、全体的に宗教に対する関心は低いと言える。また、メディア側としても宗教の良い部分を紹介するよりも、事件などを取り扱った方が視聴者の反響を多く得られると考えているからなのではないかと思う。悲しいことに日本人の関心を得るためには宗教を怖いものとして扱った方が良いのである。このようにほとんど知識のない筆者は宗教＝危ないものと認識してしまっている。

以上2点のことから宗教に関心のない人やどこか恐怖心を抱いてしまっている人たちに

13) 社会インフラのかんたんな意味 weblio 辞書 2022年1月7日

14) 集まる場所が必要だ——孤立を防ぎ、暮らしを守る「開かれた場」の社会学  
- 2021/12/25 エリック・クリネンバーグ (著), 藤原朝子 (翻訳)

15) NHK 文献ブログ #188 日本人で宗教を信仰している人は何%? 増えるの減ってるの?

としては教会やお寺、更に宗教自体にも壁を感じてしまって近寄りたいたいと感じている人が多いと筆者は思った。

## 第2章 天理教関連が運営するの子ども食堂の拡大理由

ここでは、天理教が運営する子ども食堂のパイオニア「なかよしごはん」の速水治美さん、あけみさんへの普段インタビューを通じて、天理教関連が運営するの子ども食堂がここまで拡大した訳を明らかにする。「なかよしごはん」は2016年から名古屋市熱田区にある天理教春港分教会内で毎月7が付く日の午後5時30分～7時で開催されている。対象を幼児～中学生（大人のみ参加はお断り）料金が大人300円、中学生まで100円としている。新型コロナウイルスのより現在はお弁当配布や食材配布に切り替えている。

なかよしごはんの活動開始を皮切りに全国の天理教関連のものたちが子ども食堂を開始した。天理教関連が運営するの子ども食堂は①天理教の教え、考え方②開催場所、設備の確保③LINEグループの活用、④新型コロナウイルスの影響、の以上4点より筆者は天理教関連が運営するの子ども食堂が全国で100箇所を超えるほどまでに広がっていったと思う。その4点を以下で詳しく見ていくことにする。

第1に、天理教は教会本部に教祖が存命のまま暮らしている「教祖殿」、御霊を祀る「祖霊殿」などがあり、信仰に関係なく誰もが自由に入出することができるようになっている。「神殿」では、毎日朝晩に「おつとめ」という定時定例の礼拝が行われており、また毎月26日は「月次祭」という祭典が行われている。このように天理教では定期的に集まり、礼拝する習慣があったのである。更に礼拝の後にお供え物を信者たちで頂く習慣もあったそうなのである。

第2に、天理教の人にとって大勢でご飯を食べることに何も違和感はなく、普通のことだと思っていた。また、大勢で食事をするということもあり、大量の食器や大容量のご飯を作ることができる冷蔵庫や鍋などの家電が揃っていたことに加えてお寺という場所もあり多くの人が集まることのできるスペースも十分あったと言える。更に天理教の考え方として自分たちが何か社会に対して役に立てることへやりがいを感じることは親神様も喜んでいただけるのではないかということもあった。

以上のように、子ども食堂を始めるにあたって最適な条件が多く揃っていることを知り、やりたいという気持ちよりもやらなければもったいないと感じるようになり、子ども食堂を開催することを決定したのだという。

第3に、更に天理教関連が運営するの子ども食堂が全国で100箇所近く開かれているのにはLINEグループの存在が大きいと思う。天理教全体のグループLINEは100人を超えており、その中でも女性のみグループLINEも存在するのだという。女性のみグループでは普段の子ども食堂でどのような料理を提供しているか、頂いた食材をどのように調理をするかなどを共有しているみたいである。この繋がりや普段子ども食堂を開催しているもの同士で会話をすることはなかなかないため情報共有の手段としてはとても有難いことであると考えられる。元々天理教は開催場所や道具が揃っていたという条件に加えて、このようなちょっとした工夫があることによって天理教関連が運営するの子ども食堂が広がっていったのだと思う<sup>16)</sup>。

第4に、新型コロナウイルスの影響で新しく始めた天理教が運営している子ども食堂も多

16) なかよしごはん 速水治美さん、あけみさんインタビュー 2021年7月7日 17時～18時

くある。2021年10月28日の「子ども食堂ニコニコごはん」さんへのインタビューでは100箇所を超える。ということであったが、2022年1月10日時点の速水さんの話だと、150箇所にまで増加しているという。また、速水さんと天理教関連が運営するの子ども食堂関連で交流のある方AさんによるとAさんの子ども食堂も2020年5月から開始し、コロナ禍からの活動開始となる。Aさんの周りにも8箇所の教会が子ども食堂の活動を開始したのだという。Aさんに話だと、推測ではあるが、天理教の方はお困りの方がいられたらわが身のリスクはあまり考えないのではないかと思うそうだ。実際にAさんが子ども食堂を開始した理由も「大変な時だからこそ」ということであった。また、Bさんの話によると、大阪府堺市だけで天理教関連の子ども食堂は9箇所あるのだという。堺子ども食堂ネットワーク64箇所中の9箇所なのだそう。更にCさんは、根拠となるデータはないが、肌感では、ここ2年くらいで一気に増えたと感じるという。Aさんのようにコロナを理由に始めたところも多いが、教会は道具や環境が揃っていたからこそやりやすかったのではないかという。

以上4つの点から天理教関連が運営するの子ども食堂は増加していると考えられ、特にコロナウイルスの影響が大きいと考える。天理教の助け合いの精神を持つ考えと、子ども食堂を始められる環境が揃っていたこと、また大変な今だからこそという思いがそれぞれあった。その上、速水さんのなかよしごはんなど先人となるものが多かったことも理由としてあげられるのではないのだろうか。

## 2-2 カルヴァンの予定説と天理教施設が運営する子ども食堂の発生に通ずるもの

2-1で、なかよしごはんを事例に、天理教施設で開催している子ども食堂が増加した理由を説明したが、一層深い次元の宗教教義との関連で増加の原因を探るために、マックス・ウェーバーが『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で見出した論理構造を手掛かりにする。

カルヴァンが唱える予定説によると、救済される人間はあらかじめ決定されている。したがって、人間の努力や善行の有無などによって、その決定を変更することはできない。つまり、善人が救われるかもしれないし、悪人が救われることもあるかもしれないということである。これは、神のみぞ知る事実なのである。

予定説と正反対のことを唱えているのが、因果論である。因果論は善行を働けば、救われる。というものであり、言い換えるのであれば、救われるために善行を行うという神に対する一種の冒涇にもなり得ることであった。そのためカルヴァン主義では、神の絶対性を守るために予定説を採用したのであった。この予定説は人間の精神にうまく入り込むものであり、人間は救われたいがために善行を働くのであるが、それが必ず救われるかは分からない。更に救われる対象に選ばれなければ二度と救済されることがないという恐ろしいものであった。そこで人々が起こす行動は神のために働き、神の御心に従うべきというものであった。これを禁欲的行動という。こうして人々はやっと自分が救われているという確信を持つことができ、社会により貢献するようになった。禁欲的行動はそれだけでなく、社会の利潤の肯定を生み出し、金儲けに正当性を与えたのである。これは決して金儲けを最初からの目的で行うものではなく、あくまでも「結果」として利潤を生むというものであった。つまり、人間は救われたいという思いが強くなり、神に従うことが救われる道であることに気づき、神のた

めに労働をするようになった。そして結果的に利潤を生むことができたということである<sup>17)</sup>。

このように、天理教も子ども食堂を決して金儲けや利益を生み出すために行っている活動ではない。天理教特有の考え方である「陽気ぐらし」は自己中心的な心遣いをやめて、他者の幸せを願い、助け合う心へ成長していくというものである。天理教は「陽気ぐらし」にふさわしい心になるように親神様から期待されているのであった。予定説の救われるために行動するという点については異なるが、親神様から期待されているために行動を起こし、結果的に利潤を生むことになったという点については天理教関連が運営するの子ども食堂と予定説に何か通ずるものがあると思われる。

### 第3章 天理教施設が運営する子ども食堂の参加記録

天理教施設が運営する子ども食堂の参加者と運営者に宗教に対してどのようなイメージを抱いているかを調査するためにインタビューとアンケート調査を実施した。調査に協力していただいた子ども食堂は、おかださんの台所・なかよしごはん・ほんあい子ども食堂MOGUの3箇所の子どもの食堂であり、いずれも天理教関連が運営するの子ども食堂である。まず、その3つの子ども食堂を紹介していく。

#### 【おかださんの台所】

おかださんの台所は名古屋市北区志賀町に位置している。自宅をそのまま子ども食堂として利用しており、主にご夫婦で営んでいる。そこにボランティアスタッフが加わり子ども食堂を運営している。おかださんの台所の始まりは2017年7月21日に記念すべき第1回が開催された。そもそも岡田さんが子ども食堂を始めたきっかけは熱田区にある子ども食堂「なかよしごはん」さんに見学を訪れたことである。「なかよしごはん」は玄関を上がってすぐに和室があり、そこに子どもたちが自由に入っていき姿を見て敷居が低いところだと感じたそうだ。誰かがおそろおそろ入っていくのではなく、誰でも自由には入れて、リラックスできる空間を感じ、すぐに岡田さんはうちでも子ども食堂を開くことを決心したのだ。もともと岡田さんは地域の小学校のPTAを務めていた。そのPTAの勤めが終了した後に「まだ、若いのだから地域のために何かやったらどうですか。」といわれていた言葉があり、地域のためになる子ども食堂を開く後押しになったそうだ。

また、更に7年前から保護司活動も行っているそうだ。保護司活動とは、少年犯罪を起こしてしまった人達を将来同じ過ちを繰り返さないように正当な道に進んでもらうべく助言や指導を行う活動のことである。ある少年が起こしてしまった犯罪の理由が、家族とのすれ違いの生活の中から生まれてしまうような居場所がないことであった。これを聞いた岡田さんは子ども食堂のような誰でも参加できるような居場所があればこのような事態にはならなかったのではないかと感じるようになり、子ども食堂を開く中でも居場所があるということに重きを置いて子ども食堂をスタートさせたのである。居場所に重きを置いているからこそ、子ども食堂でただご飯を食べるだけではなく、くじやゲームにお菓子のつかみ取りなど子どもが楽しめるようなコンテンツも用意するのがおかださんの台所の特徴であると言える。コロナ禍での活動は以下のようになっている。

17) 5分でわかるウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神（プロ倫）」要約 <https://victorypix.com/protestantism/>

2020. 2月→コロナ前と変わらず開催

2020. 3月～6月→お弁当配布のみ

2020. 7月～現在→お弁当配布 or その場で食べる（選択可能）

コロナ前の最後の活動は2020年2月であり、そこからは以前とは少し異なるものの活動を続けている。おかださんの台所は自宅での開催としているため、子ども食堂の開催場所を違うところから借りて開催している子ども食堂に比べると比較的コロナ禍であっても子ども食堂の再開はやりやすかった方であると思う。どうしても借りている場所を子ども食堂に使用しているところであると、自分たちは子ども食堂をいち早く再開させたいと思っていたとしても場所を提供していただいている人の許可を得ることができないと活動ができないはずである。一方で自宅開催はというと、自分の意思で何事も決める事は大変なこともたくさんあると思うが、こういった非常事態の時には自分の判断で活動ができるため良い点であるのではないかと思う。

筆者自身も2020年7月からおかださんの台所にボランティアスタッフとして関わらせていただいている。7月から予定の合う日はなるべく参加させていただくようにしている。そのため、コロナ禍での活動を近くで見えて体験することができるのは非常に貴重なことであると思っている。おかださんの台所は先程も述べたようにお弁当配布と自宅で食べていく人と2パターンを基本の形にしている。（今年の夏から一部お弁当配達を始めた。しかし、高齢者のみに限る。）2020年はコロナウイルス誕生の年であったため何もかも初めての経験であった。そのため誰の行動が正しいということはなく皆が探り探り進めていく他なかったと思う。それはもちろん子ども食堂にも同じことが言える。約1年前、2020年の秋ごろは感染者の数が少しずつではあったが減少傾向になり、子ども食堂の活動も少し以前のようにはいかないが活気づいていくように見えていた。しかし、その思いも束の間であり、同年12月頃にはまた感染者が急増するという事態に見舞われてしまった。この感染者の急増は一時的なものではなく2021年にも持ち越し、緊急事態宣言もやむを得ず発出することになった。その頃のおかださんの台所の活動はお弁当配布がほとんどであり、時にはその場で食べていく人が誰もいないという日もあった。しかし、現在は感染者数が再び落ち着きを取り戻してきたため、お弁当配布に加えてその場で食べていく人の数が増えたのであった。家族で来る人もいれば、小学生のグループで来ることもあり、筆者はおかださんの台所に参加し始めてから初めてののにぎやかな食卓を見ることができて感慨深いものがあった。定期的に通い、近くで見ることができていたからこそその思いがあったと思う<sup>18)</sup>。

ここで2020年9月24日と2021年5月27日の活動記録を示す。

#### 【活動の流れ】

16時半～17時半 お弁当用のご飯をパックに詰める作業を手伝う。リンゴを剥く。

17時半～18時半 お弁当を頼んでいたお客さんに渡す作業と来てくれたお客さんに料理を運ぶ作業をする。

#### 【メニュー】

ご飯・鶏肉のトマト煮・焼き鮭・かぼちゃの煮物

---

18) おかださんの台所 岡田常晴さんインタビュー 2021年2月3日



図1 2020年9月24日のお弁当

### 【活動内容】

おかださんの台所は17時半から始めるのが、その日は開始時刻になってもなかなかお客さんが現れなかった。お弁当を予約していた人はだんだんとき始めたが、食べにくるお客さんがその日はほとんど来なかった。そのため、空いている時間に雑談をしながら来るのを待っていた。コロナがだいぶ落ち着いたというのにも関わらず、なぜかお客さんが減少傾向にあるという。この原因は正直わからないと頭を悩ませていた。学校が始めた関係で時間がうまく取れなくなったのか、それともたまたまその日は都合がつかなかったのかなど考えられる理由はあるが、本当のところはわからないので、また経過を見ていきたいと思う。

### 【活動の流れ】

15時30～17時 お弁当準備

17時半～お弁当配布

### 【メニュー】

お弁当（コロッケ、筑前煮、ポテトサラダ、サラダ、ひじき、果物、味の南蛮漬け、筑前煮が足りなかったため炒り卵）



図2 2021年5月27日のお弁当

### 【人数】

お弁当40個

食べていく人は今回は0

## 【活動内容】

私は5月27日（木）の子ども食堂に参加させていただいた。今回も玉三屋のお惣菜をいただきお弁当に詰めていく形となった。私は毎回お惣菜を詰める手伝いをしているが今回は筑前煮が分けている途中でなくなってしまったため、岡田さんの奥さんが家にあった卵で簡単に炒り卵を作ってくださったため事なき終えた。このように食材が足りなくなっても何かあるもので機転を気化し、一品作れるのはこういった子ども食堂ならではなのかと思う。また今回は見学に来たいと人が2人来た。その方は大曾根で居酒屋を開いているのだがコロナ禍で思うように経営がうまくいかないことと、食材を余らせたくないという思いで子ども食堂を開きたいと考えているようだ。そこで紹介されたのがおかださんの台所であったそうで今回は見学に来たのだという。この状況下で子ども食堂に着目されている関係でより多くの人が子ども食堂に興味を持ち、更に自分でやってみたいと思う人がいることがうれしく思った。

## 【ほんあい子ども食堂 MOGU】

ほんあい子ども食堂 MOGU は名古屋市中村区に位置している。ほんあい子ども食堂 MOGU は天理教の教会を使用し、2018年4月に子ども食堂をスタートさせた。そして、毎月17日前後に月に1度子ども食堂を開催している。子ども食堂のみならず2019年5月からは「ほんあい OKEIKO」という学習支援もスタートしている。代表である安藤吉人さんは天理教の教会の会長を務めている。安藤さんは普段、別の仕事をしており、仕事とは関係なく子ども食堂や学習支援を行っている。ほんあい子ども食堂 MOGU を始めるきっかけは、純粋に地域の貢献活動を行いたい。と思い行動に移った次第であるようだ。子ども食堂を開設するにあたって地域の人に説明をしに行ったところ、快く承諾を得ることができ、現在も地域に応援されながら活動を続けている。もともとこの中村区大宮町は子どもの教育に力を入れており、様々な活動をしているが、唯一子ども食堂のみ開かれていなかったため、子ども食堂の開設を地域の人も喜んでくれたようだ。ほんあい子ども食堂 MOGU のコロナ禍での活動は以下のようになっている。

2020. 2 → 通常開催（コロナ前最後）

2020. 3. 4 → 天理カレー配布（天理カレーとは奈良県で毎年開催いた「こどもおぢばがえり」で食べられていたカレーをスジャータと共同開発し、レトルトカレーにしたものである。）

2020. 5. 6. 7. 8 → お家で過ごそうセット配布（安いが屋という居酒屋がお弁当を提供してくださったこともあった。）

2020. 9. 10. 11 → 通常開催（10月には子ども食堂と同時にイライラしない子育て講座も開催した）

2020. 12 ～ 現在 → お弁当配布

コロナ以前での活動は皆でご飯を食べた後に子どもたちが自由に遊ぶことができる時間を提供していた。教会を子ども食堂の場として利用しているため学校ほどの体育館並みの広さはないが、自由に遊ぶことができるスペースとしては最適な場であった。これが子ども食堂に参加している子どもたちにとって思いのほか好評であり、学校でも、公園でもないような「第3の居場所」として子ども達に親しまれていた。しかし、コロナウイルスの影響により皆でご飯を食べることもできなければ、当然中で遊ぶことも禁止となってしまった。一時期コロナがひどく萬栄していたときは、教会の中に入ることも禁止し、完全にお弁当を配布するのみの活動が続いた。この状況は子どもたちにとってつまらないものであり、「中で遊び



たい」という声が聞こえてきた。その声を聞き、安藤さんは子どもたちにつまらない思いはさせたくないと思い、2020年12月からはお弁当配布の形は変えないが、中で遊ぶことを許可したのであった。現在のほんあい子ども食堂 MOGU は子どもたちが中で遊び、その帰りにお弁当を持って帰るといった形をとっている<sup>19)</sup>。

ここで2020年6月17日の参加記録を示す。

**\* 【活動の流れ】**

17時～19時 子どもたちと一緒に遊ぶ

**【メニュー】**

味噌カツ弁当

ほんあい子ども食堂 MOGU でのボランティアスタッフは、料理やお弁当配布を手伝いのではなく、写真のような広場で子どもたちと一緒に遊び、時にははしゃぎすぎている

子どもたちを注意するのが主な役割であった。遊んだ後、帰りにお弁当をもらっていく。というのがコロナ禍で誕生した新たな形である。



図3 子どもたちが普段遊んでいる様子

**【なかよしごはん】**

なかよしごはんの基本情報は2-1に記載したためここでは省略をする。なかよしごはんのコロナ禍の活動を見ていく。なかよしごはんの地域はコロナウイルスが早く出始めた地域であった。地域のハワイ帰りの人がコロナウイルスに感染し、ジムや病院などの施設を利用したことが感染拡大の要因ではないかと考えているようだ。そのため、3月は活動を中止した。しかし、通常は夏休みなどの長期休暇はお母さん方の負担が大きいかを知っていたため、今回のコロナウイルスの影響は夏休み以上にお母さん方に大きな負担がかかるのではないかと思います何とか早く活動を再開させるために行動を起こしていた。その行動としては、最初は何とか子ども食堂として活動を行いたいと考え、お弁当を作る案を出したが、保健所はお弁当の持ち帰りを禁止した。その訳は、食中毒などのリスクを考慮した決断であり、何か問題が起きては今後の活動にも支障が出ると考えたからであった。しばらくして、非常食（牛井やお米）をいただくことが出来たため、3月7日に配布を行った。この情報は全国環境対策機構の友達から話を聞き、手作りのお弁当はダメでも買ったお弁当なら配布をしても良いのではないかと考えた結果の行動であったようだ。そして通常なら45食限定にしていたもの

19) ほんあい子ども食堂 MOGU 安藤智郎さんインタビュー 2021年6月17日

を取っ払い上限を決めずにお弁当などの販売を始めたそうである<sup>20)</sup>。

ここで、2020年12月19日の活動内容を示す。なかよしごはんは土曜日になかよし勉強会というものを実施している。これは学習塾ではなく、学校の勉強内容が分からずに1人で悩んでいる子を対象に開かれており、サポートの先生と一緒に勉強をしていくものである。

【開催日時】土曜日開催 10:00～11:30

【参加費】子ども（中学生まで）100円（昼食の有無に関わらず）

12月19日のメニュー：炊き込みご飯、みそ汁、たくあん、サラダ、果物



図4 2020年12月19日の昼食

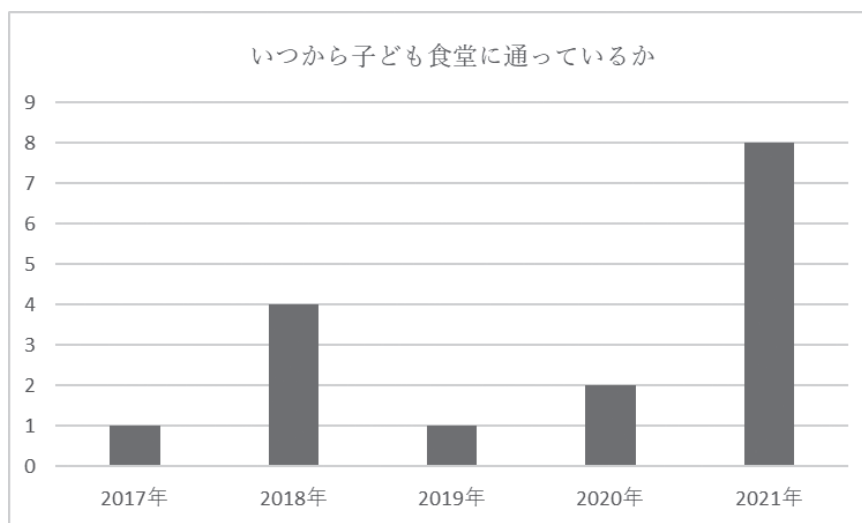
【今回の大まかな流れ】勉強指導→10分休憩→勉強指導→食事準備→ごはん→食器片付け、会場撤去作業→反省会→解散<sup>21)</sup>

## 第4章 子ども食堂参加者の宗教イメージのアンケート調査結果

アンケート調査の結果をおかださんの台所→ほんあい子ども食堂 MOGU →なかよしごはんの順に見ていこうと思う。

【おかださんの台所】

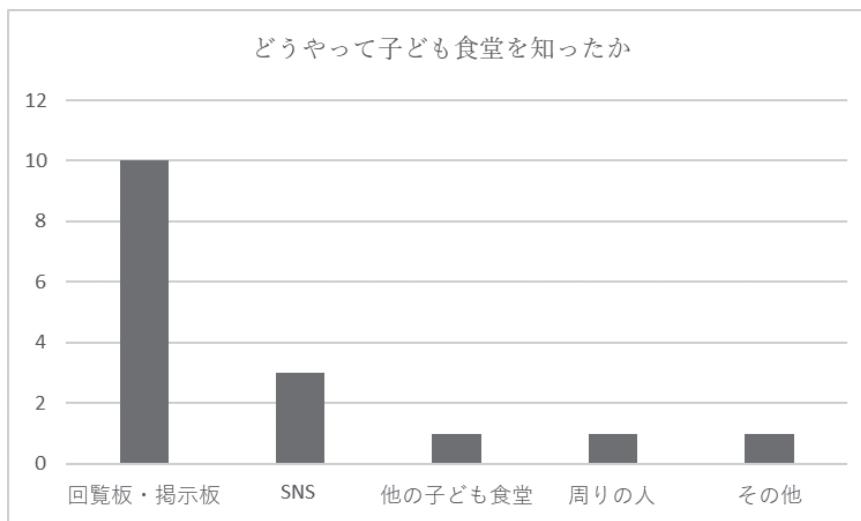
問1 いつから子ども食堂に通っているか



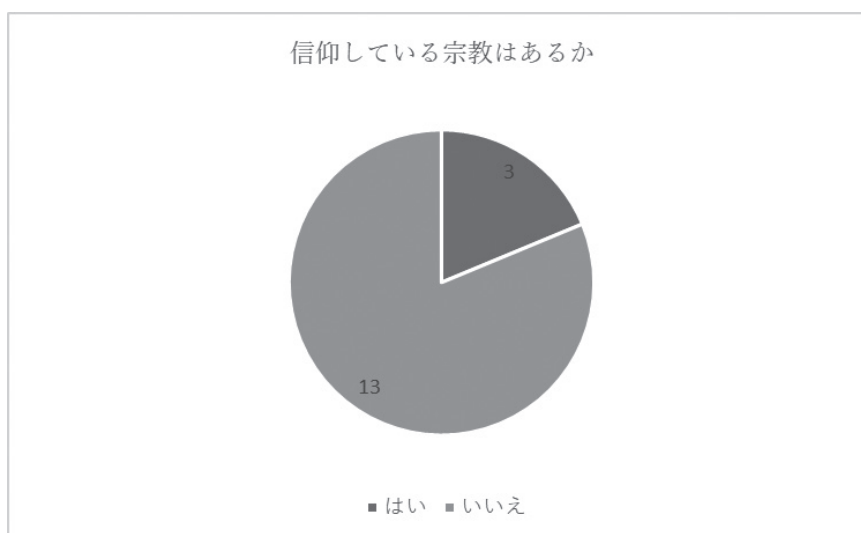
20) 速水あけみさんへのインタビュー 2021年5月15日

21) なかよし勉強会参加記録 2020年12月19日

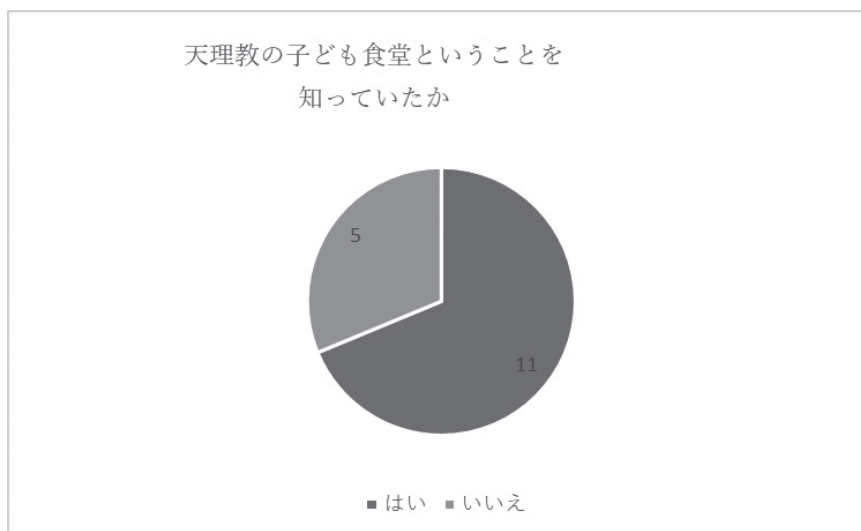
問2 どうやって子ども食堂を知ったか



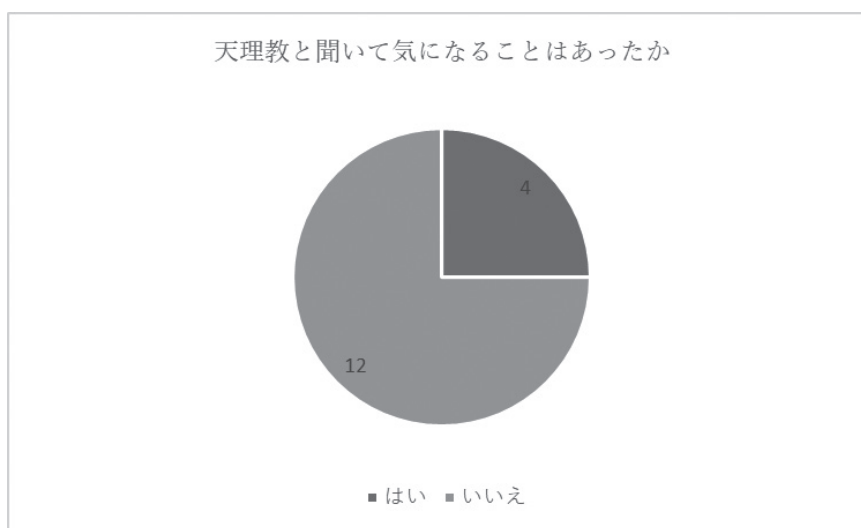
問3 信仰している宗教はあるか



問4 天理教関連が運営するの子ども食堂ということを知っていたか



問5 問4で「はい」と回答した人の中で最初に天理教と知った時に何か気になることはあったか。



問1のグラフを見ると、おかださんの台所は地域の小学校などに回覧板・掲示板で宣伝をしていることもあり、年々徐々にではあるが来てくれる利用者の数が増えていることが2020年から2021年にかけての参加人数を見てみるとよくわかる結果になった。更にアンケート調査を行った日が初めて来たという人も中にはいた。初めて来た人の中には子ども食堂の存在は知っていたが、なかなか時間が合わず来ることが出来なかったが、今日初めて来ることが出来た。という方もいた。天理教関連の子ども食堂だということを知っている人は以前から通って下さっている人達が多く、その日に初めて来た人はまだ何もわかっていない状態であったため天理教ということを知らなかったのだろう。

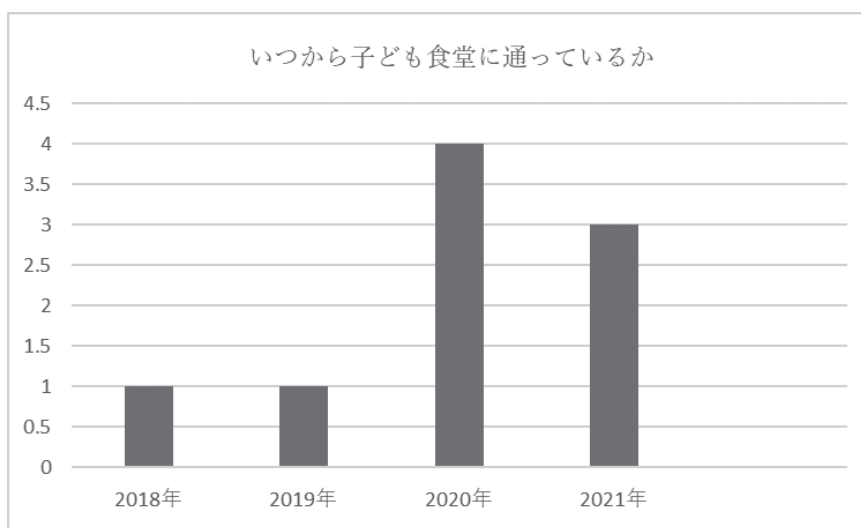
問5のグラフから見えることは16人中、天理教ということを知って何か気になることがあったと答えた人は僅かに4人だけであり、何も気になることはないと答えた人は3倍の12人であった。4人の気になることがある。と答えた人の回答をまとめる。

1. 天理教の勧誘があるかと思いきドキドキした。
2. もしかしたら、勧誘されちゃうのかなと少し気になった。
3. 宗教と何か関係があるのかと不思議に感じていた。
4. 勧誘されないか。

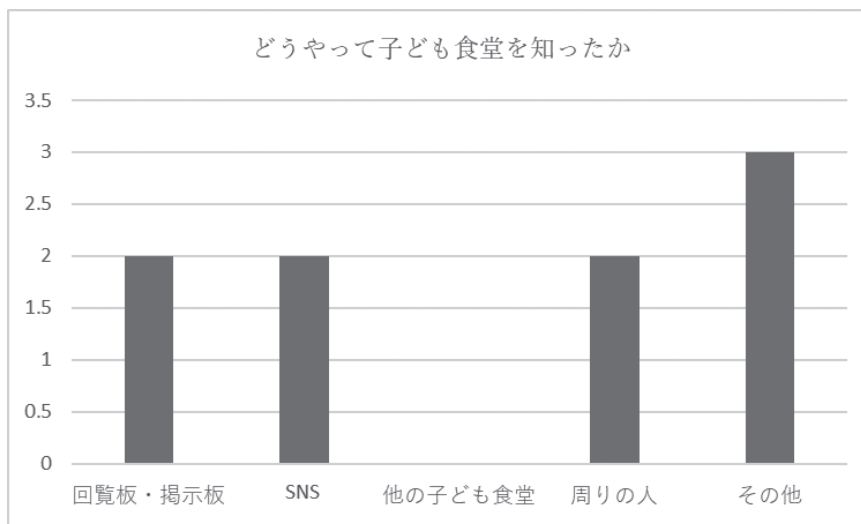
4人の解答を見ると全員が宗教に勧誘されるのではないかと不安に感じていたことがよくわかった。しかし、その後、子ども食堂に通ってみて現在はどのようなイメージを持っているのかということを知ると、4人全員が「宗教に関係ないことが分かり安心して利用させてもらっています。」「優しく接して下さりいつも感謝しています。」など現在はプラスの考えを持っていることが分かった。更におかださんの台所だけでなくその他の宗教関連の子ども食堂にも通っている人は、「天理教に関係なく宗教が関わっている子ども食堂は長続きしているところが多いと思います。信者さんがボランティアを行って、寄付などを積極的に行っているからかなとも思います。」といったように宗教全般に対してのイメージが上がったような回答も得ることが出来た。

### 【ほんあい子ども食堂 MOGU】

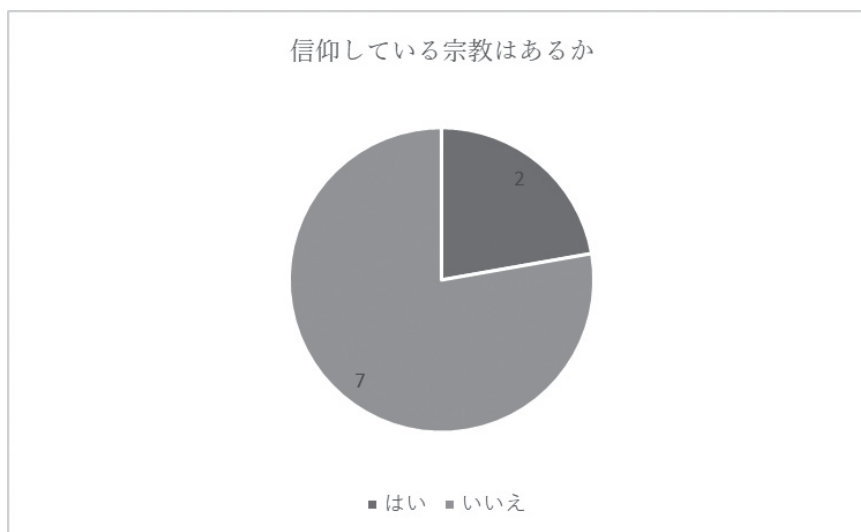
問1 いつから子ども食堂に通っているか



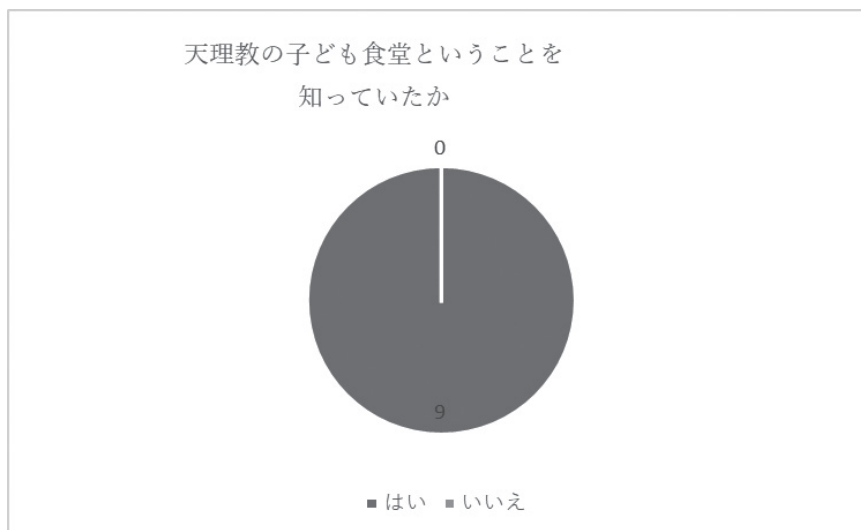
問2 どうやって子ども食堂を知ったか



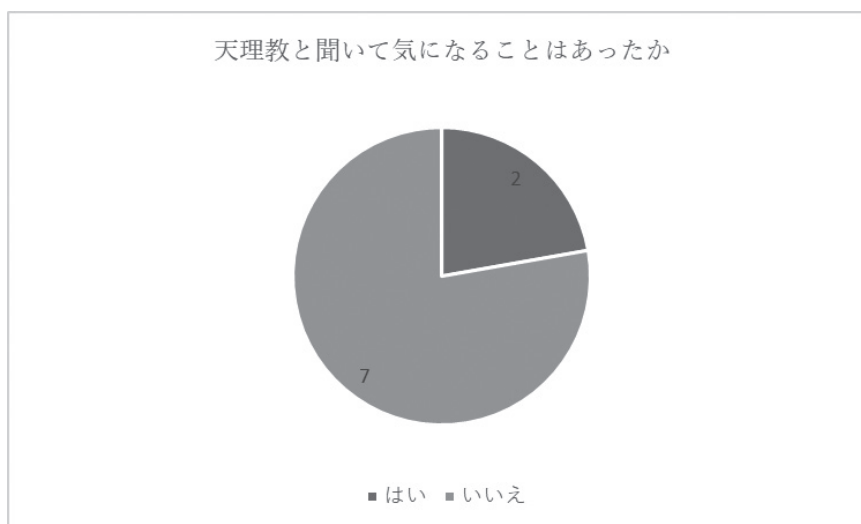
問3 信仰している宗教はあるか



問4 天理教関連が運営するの子ども食堂ということを知っていたか



問5 問4で「はい」と回答した人の中で最初に天理教と知った時に何か気になることはあったか。



ほんあい子ども食堂 MOGU は 2018 年から活動を始めている。問 1 のグラフを見ると、2018、2019 年から通って下さっている人もいるが 2020 年から通い始めたという人が多いことが分かる。これは、新型コロナウイルスの影響により、全国に子ども食堂という存在が大きく知れ渡ることとなったのが関係しているのではないかと思う。新型コロナウイルス感染予防のためにみんなでご飯を食べることは中止にして、お弁当の配布のみという形をとるようになり、子どもたちにとっては友達と一緒に遊ぶことが出来なくなり不満が募ることが多かったと思うが、親たちにとってはお弁当配布というのは月に 1 回でも非常にありがたいものになっていたのではないかと思う。

問 2 のグラフを見ると、回覧板・掲示板、SNS、周りの人から子ども食堂の存在を知った人は同じ数であり、1 番多いのがその他という結果になった。このその他の回答で何が多かったかという、「教会の友達から聞いた」「教会から聞いた」という声であった。今の時代でいろいろな宣伝の仕方があると思うが、教会を通じてというのは宗教関係の子ども食堂ならではないかと思う。またほんあい子ども食堂 MOGU はインスタグラムや YouTube など駆使しているためそういったところから子ども食堂の存在を知った人もいることがよく

わかった。

問4のグラフを見ると、このグラフが1番教会を利用しているからこそその結果になったと思う。ほんあい子ども食堂MOGU以外の2つの子ども食堂はアンケート調査を行った日に初めて来た人という人は天理教関連が運営するの子ども食堂ということを知らなかった。しかし、ほんあい子ども食堂MOGUはアンケート調査を行った日に初めて来たという人もいたのにもかかわらず、天理教ということは知っていたということが分かる結果である。

問5のグラフを見ると、9人中2人が天理教関連が運営するの子ども食堂ということを知って何か気なることがあったと回答し、7人は何も気にならなかったと回答した。2人の気になることがあった。と答えた人の回答をまとめる。

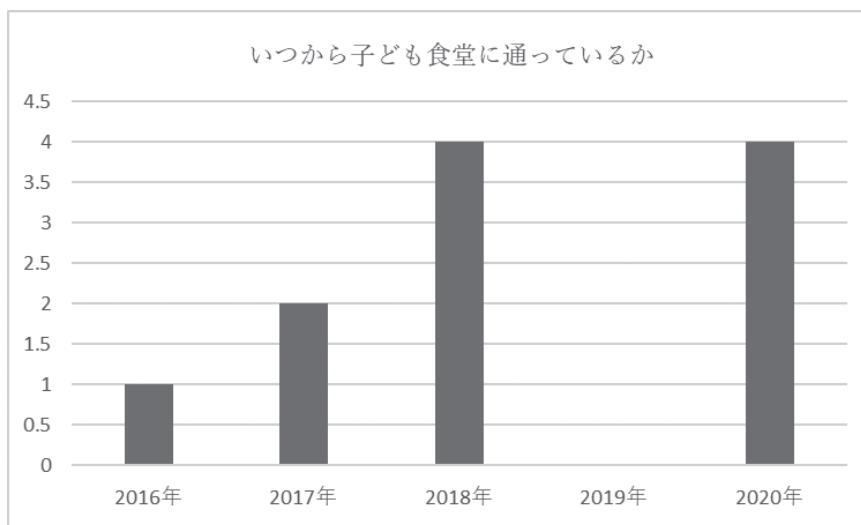
開催している場所が教会ということがあり、自分は無宗教なのに参加をしてもいいのか心配であった。

代表の安藤さんと小学生の時の同級生で子ども食堂の存在を知った。しかし、周りの人に宗教関係の子ども食堂に通っていると知られるとどう思われるのかが心配であった。

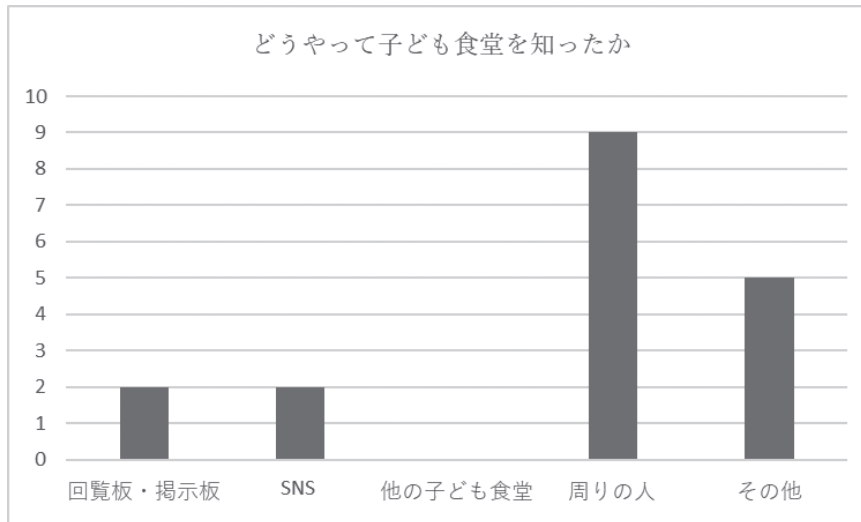
2人の回答を見ると、おかださんの台所の時の結果とは異なり、勧誘されるのではないかといった心配はなかった。宗教に関係のない自分が参加していいのかという不安と、周りからの目を心配するものであった。これら2つの回答から見れることは、天理教の教会で子ども食堂を開催していることが原因になるのだと思う。おかださんの台所のように民家をそのまま子ども食堂の開催場所に行っていると一見、天理教関連が運営するの子ども食堂というはわからないと思う。知る人だけが知っているような感じである。しかし、天理教の教会となると外から見てもわかってしまうことが心配要素になってしまったのである。だが、その心配要素も通っているうちに無くなり今では安心して子ども食堂を利用しているという。また、安藤さんの知り合いで周りからの目を心配していたという方も、気になったのはほんの少しであり、何か周りの人に言われたときはきちんと説明をすればよいと思い、子ども食堂への参加を決めたそうだ。

## 【なかよしごはん】

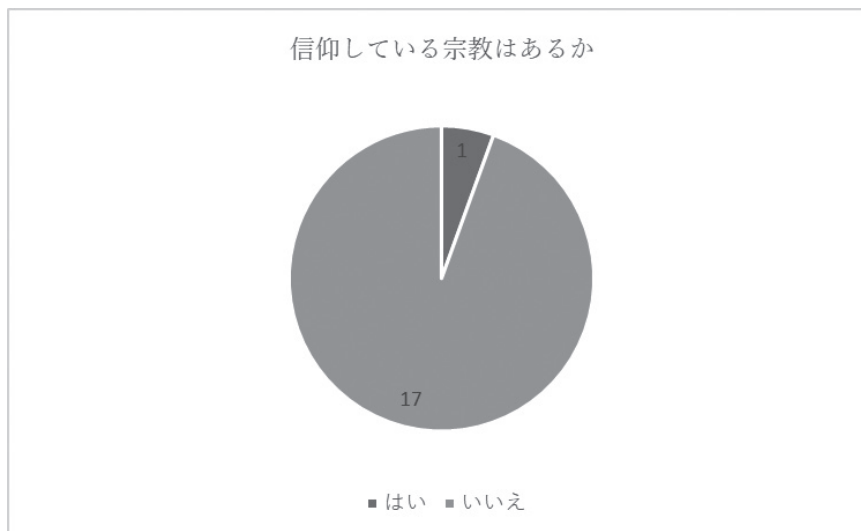
問1 いつから子ども食堂に通っているか



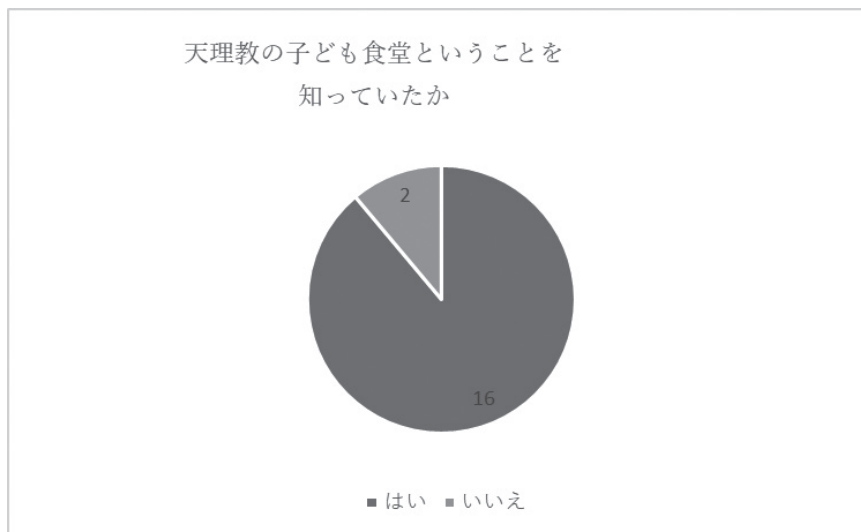
問2 どうやって子ども食堂を知ったか



問3 信仰している宗教はあるか

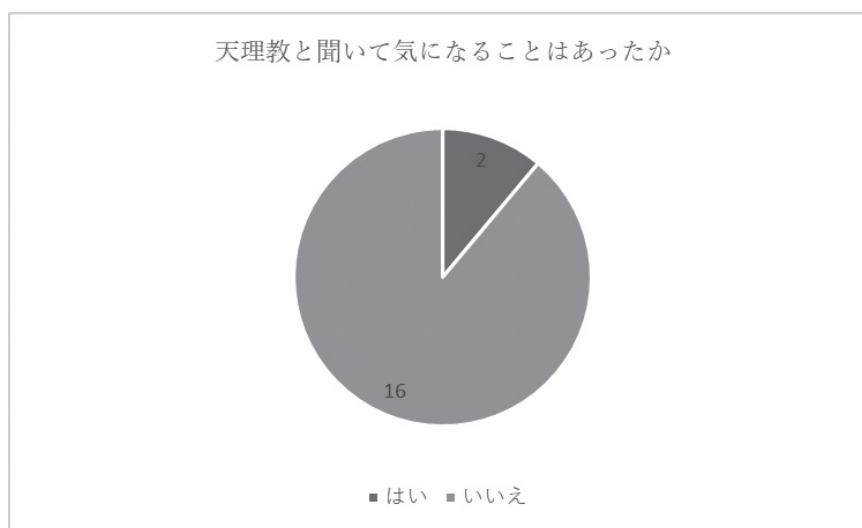


問4 天理教関連が運営するの子ども食堂ということを知っていたか





問5 問4で「はい」と回答した人の中で最初に天理教と知った時に何か気になることはあったか。



なかよしごはんは今回アンケート調査を行った3つの子ども食堂の中で1番歴が長い子ども食堂になる。そこで問1のグラフを見ると、年々参加者の人数が増えていることが分かる。2020年に少し数が減少してしまったのは新型コロナウイルスの影響が関係していると思うが、2021年から参加している人の数が多いことを見れば、参加者の人数は増加していると言えるだろう。2021年から参加している人が多いのはほんあい子ども食堂MOGUの時と同様に全国に子ども食堂の存在が知れ渡ったことが影響していると思う。一方で開催年の2016年から参加している人も多く見られるのはそれほどなかよしごはんが地域の人たちに愛されているからなのではないかと思う。周りの人から愛されていることが分かることとして、問2のグラフを見てみると、周りの人からなかよしごはんの存在を聞いたという人が1番多かったというのも挙げられるのではないかと思う。1度参加してみた人がすごく楽しかった、ありがたかったなど好印象を抱いたことにより周りの人にも宣伝をしたくなってしまうことがあったのであろう。

問3のグラフを見ると、信仰している宗教があると回答した人は1人だけであった。自分のイメージ的には天理教を信仰している人が多く集まり、子ども食堂に参加している人が多いと思っていた。しかし、実際はそんなこともなくただなかよしごはんが好きで参加している人が多いということがわかった。その中でも問4のグラフを見るとなかよしごはんが天理教関連が運営するの子ども食堂であると知っている人は18人中16人と、ほとんどであったため宗教を信仰しているかいないかは関係なくただ天理教関連が運営するの子ども食堂であるという認識のみで来ている人が多いと思った。

問5のグラフを見ると18人中2人が天理教関連が運営するの子ども食堂ということを知り何か気になることがあったと回答し、16人は何も気になることはなかったと回答した。2人の気になることがあった。と答えた人の回答をまとめる。

1. 宗教の勧誘があるのかと思って最初は気になっていました。
2. 牧師さんからあまり出入りしないで下さいと言われていました。

2人の回答を見ると、おかださんの台所の結果と同じように勧誘されるのではないかと不安を持った人が少なからずいるのだということが分かった。一方で牧師さんからあまり良い印象を持たれていないと回答した人はキリスト教の信者であるが子ども食堂は非常に助

かるので参加しているという方であった。今となっては正直、天理教の話をされるのは困るところもあるが、子ども食堂としてもボランティアスタッフの方も優しいを感じているとのことだった。また、最初に勧誘の心配をしていた方も今ではそのような勧誘がされる様子もないため安心して利用させてもらっているのとのことであった。

## 第5章 子ども食堂利用者にとって宗教

3つの子ども食堂にアンケート調査を行い、簡潔に結果を述べると、宗教に対して最初は不安要素を感じている人もいたが、現在もその感情を持っている人はいないということであった。この最初に感じてしまっていた不安要素というのもの、人間が初めて訪れる場所には緊張してしまう、といったものと同じなのではないかと考えた。というものの、何か新しいことや行動を起こすには何かしらの勇気が必要である。それが子ども食堂に行ってみることであり、更に宗教施設が運営しているというレッテルがあることにより、宗教に関係のない人が行ってもいいのかというのが不安要素になっていたのだと思う。しかし、その不安要素を感じていた人であっても、いざ子ども食堂に参加してみると、不安よりも子ども食堂という存在が、ありがたく感じ、また子ども食堂の人たちも温かく迎えてくれることによって新たな居場所のように感じて参加者にとって、最初は不安であったが、参加してみると、居心地が良い場所という認識に変わっていたのであると思う。

今回は最初に不安要素を持っていた人はあまりいなかったが、現実問題として、本当に宗教に対してよくないイメージを持っている人は子ども食堂のことを見向きもしないであろう。これは偏見を持たれているということであり、そういった人たちにこの活動が届くことがあればもっと宗教に対する日本人の捉え方も変化してくるのではないかと思った。

## 第6章 宗教施設であるために子ども食堂運営者の参加者への配慮

次に宗教施設の子どもの食堂を運営している側の人たちは、宗教施設の運営する子ども食堂ということで何か不利に感じてしまった経験や率直に宗教施設が運営する子ども食堂について今後どのようなことを期待しているのかななどをインタビューさせていただいた。その記録を示していく。

【おかださんの台所 岡田常晴さん 2021年1月7日16時～】

Q 宗教関係の施設の子どもの食堂で何か不利に感じたことはありましたか？

A 特にないです。学区役員の関係で、会議や行事に参加をすることがあります。その中でコロナ前最後の年の盆踊りの手伝いの後の慰労会で、後片付けをしている時にお酒も入っていたこともあり、学区のことではなく子ども食堂についてある方から言われたのが、「宗教に対して偏見があるかもしれないけど、頑張っってね。」という言葉でした。その時に正直初めて、宗教に対して偏見を持っている人も中にはいるのか。と実感しました。

Q 宗教関係ではない他の子ども食堂に対して壁を感じたことはありますか？

A これも特にないです。宗教が何かの壁となり、他の子ども食堂との差を感じることはないです。ただ、単純に場所が広くてうらやましい、料理が上手でいいな、などというこ

とは思うことはありますけど。

Q 宗教施設の子ども食堂がどうなってほしいとっていますか？

A 宗教というのは世の中の為になることをするべきであると考えているため、必然的に行うべき行動であると思っています。

岡田さんは10年ほど前にPTAの会長を務めていた。そのおかげもあり、子ども食堂を開始するときに地域に挨拶と説明をしに行ったが、ほとんどがPTA時代の顔見知りということもあり、すんなりと了承を得ることができたという。このような経験があるからこそ、岡田さんの顔は地域では顔見知りの人が多かったという。宗教差別の偏見で苦しんだ経験もなければ、顔なじみが多いことによって批判的にみられることは今まで感じたことがないようである。

【ほんあい子ども食堂 MOGU 安藤智郎さん 2021年1月8日10時～】

Q 宗教関係の施設の子ども食堂で何か不利に感じたことはありましたか？

A 現実的な話でいくと、補助金や助成金などの支援を断られた経験はあります。はっきりした理由はわからないのですが、もしかしたら、宗教活動をしていると思われたのかな。と思いました。来てくれている参加者の人から何かある、といったことはないです。門構えがお寺になっているので、来てくれている人たちは皆さん理解してくださっていると思います。でも、最初に地域の人に子ども食堂を開催すると説明しに行ったときに、ただ単なる疑問として。「宗教活動の一種なのですか？」と聞かれたことはあります。そこで、全くそういったつもりはないです。と答えたので今では応援してくださっています。

Q 宗教関係ではない他の子ども食堂に対して壁を感じたことはありますか？

A これといった大きな壁ではないのですが、もっと行政と連携を取りたいな。とは思っています。社会福祉協議会の人達とは良好に関係を築けているのですが、どうしても行政となると絡みにくいと感じてしまいます。連携を取りたいと思っただけでも、宗教関係のことが気になり、こっちが気にしすぎているように感じています。結局は関係を築くことが大切だと思います。きちんと勧誘などの目的は一切ないと説明をすれば大抵は理解してくださると思います。

Q 宗教施設が運営する子ども食堂が今後どのようになってほしいとっていますか？

A 日本にとって宗教が必要なものであると思われる日がくれば良いなとっています。だから、子ども食堂の活動がゴールではなく、もっと他の活動も行うべきであると思います。例えば、行政などが関わってくるとお金が発生してしまうような地域のごみ拾いや老人の見守り活動などを宗教が積極的に行えば、日本にとって宗教が必要であると感じてくれる人が増えると思います。

日本人の宗教に対しての意識の薄さや恐怖心を抱いているかもしれない。筆者の思いを述べたところ、安藤さんも共感をしてくれた。安藤さんが昔、アイルランドに住んでいたとき、アイルランドというのは国民の約90%がカトリックを信仰している国であるため、宗教というものが強く根付いているのだそうだ。それに比べると日本人の関心の薄さは明確にわかるだろう。また、オウム真理教の事件と時に宗教側がきちんと宗教というものはこういったものがすべてではありません、と反論と説明をするべきであったのではないかと考えているそうだ。そもそも宗教側にも社会のためになろうという気持ちがありません。これも日本の宗

教の意識の低さに関係しているのではないかと思う。だからこそ、安藤さんの考えるように、宗教側も歩み寄り、日本にとって必要であると思われることが大切なのではないかと考えた。

【なかよしごはん 速水あけみさん 2021年1月8日16時10分～】

Q 宗教関係の施設の子ども食堂で何か不利に感じたことはありましたか？

A 今までなかよしごはんに来たことがない人で、天理教関連が運営するの子ども食堂だからやめておこうと思ってしまった人がもしいるのであれば不利になっていると思います。でも、これはわからないことであるから、特にないのかもかもしれません。逆に有利に感じたこともあって、コロナウイルスがまだ感染し初めだった時に自宅で開催していることもあって他の施設を貸しているところに比べたら早く行動に移すことが出来たのでうらやましがられたことはあります。過去に子ども食堂を始めた時に天理教関連が運営するの子ども食堂だからといってポスターを剥がされたり、小学校でチラシを配布してもらえなかったことはありました。でも、今では小学校側もきちんと理解をしてくださったのでチラシを配布してもらっています。

Q 宗教関係ではない他の子ども食堂に対して壁を感じたことはありますか？

A 人と比べることをあまりしないので特にないです。うちにスタンスはここでいいならおいで。と思ってやっていますから。

Q 宗教施設が運営する子ども食堂が今後どのようなようになってほしいと思いますか？

A みんながもっと子ども食堂をやってくれればいいなと思います。本当に困っている人というのは、日本人の生真面目な性格も相まって私なんか、思っしまい子ども食堂に来ないものなんです。だから、絶対に「困っている人は来てください。」と書いてしまったら本当に困っている人は来ることが出来ない。「誰でもどうぞ。」と書くことによって本当に困っている人も来やすくなると思います。そして関係を気づいていくうちに実は貧困で困っているということが分かればいいと思います。また、本当に困っている人がもし、宗教関連が運営する子ども食堂だからちょっと行きづらいと感じてしまっていることがあれば他の子ども食堂に行くべきだと思います。だから、宗教関連の子ども食堂だけでなく、より多くの引き出しを作るために子ども食堂が増えるといいなと思います。

日本人の性格上、宗教に関係なく、人に頼ることを苦手としている。私よりももっとつらい状況の人はいるはずと思い込んでしまう人が多いのだろう。また、人間というのは、相手に何か行動を起こす際に見返りを求めずに利他行動をするのは難しいと言われている<sup>22)</sup>。このことが人に頼ることのできない日本人の特徴を現わしており、何か助けてもらった場合にはお礼をしなければならない。と思う人が多く、うまく人に頼ることが出来ないのではないかとされている。

3つの子ども食堂の代表者にインタビューをし、共通していたのは今、子ども食堂に参加している人で宗教に対して大きな偏見を持っている人はいないということであった。むしろ、偏見を持っている人は今まで参加することはないだろうと思った。インタビューを聞きながら、筆者が感じたことは、宗教に対して偏見を持っている人は宗教施設の子ども食堂に来る

22) 川上裕美 見返りを期待しない利他行動における共感の意義 - 奉仕活動の動機から考える - 博士 (人間科学) 学位論文 2007年1月

ことはない上に、今後も理解を得ることは難しいと思う。しかし、宗教も日本の行政ももっと歩み寄り、お互いに必要に感じる関係性を築くことがもしできたならば日本は大きく変化していくと感じた。

## 第7章 日本と宗教の間に存在する壁

今回、「おかださんの台所」、「ほんあい子ども食堂 MOGU」、「なかよしごはん」の3つの天理教関連が運営するの子ども食堂を軸にアンケート調査とインタビューを行った。その時に筆者が漠然と抱いていたイメージでは、宗教に対してよくないイメージを持っていた人が最初は多かったのではないかというものであった。しかし、その結果は異なり、最初は確かに不安に思うことはあったが、それ以上に子ども食堂の居心地が良いことや、日ごろの生活で助けられていることもあり、多くの人が参加し続けているという事実であった。

運営者側の人たちにインタビューをしてみると、日本という国と宗教の間に何か壁があるのだらうと感じた。国側も宗教にあまり関わりたくないという気持ちを持ってしまっており、宗教側はこれまでの宗教活動をするためにいろんな活動をしているのでしょうか？といった色眼鏡をかけた状態でみられることが多かった経験などもあり、どこか消極的になってしまっているのだと思う。この問題は決して簡単に解決するようなことではなく、日本人の考え方、メディアの報道の仕方、宗教側も国側も歩み寄ることなど様々な問題があると思う。しかし、コロナウイルスにより今まで寄付というものがどこか近寄りがたいものだったのが、フードパントリーなどの活躍により少しはハードルも下がったということがあるように、何かをきっかけに宗教のハードルも下がる可能性はあると思う。このまま宗教施設が運営する子ども食堂には、子ども食堂のみならずもっと幅広い活躍ができることを願っている。そして、頑張るのは宗教側だけでなく、筆者含め無宗教の人にも誤った固定概念は捨て、宗教のことを理解していくことが大切であると思う。宗教と日本の関係性で大切なことはお互いが理解し合う関係性を築くことではないかと、この調査を通じて実感した次第である。

### 【参考文献】

- ・安福英希 森本富裕菜 前田博子 2017『運営主体および空間からみた子ども食堂の分類に関する研究 豊田工業高等専門学校研究紀要』第50号, [https://www.jstage.jst.go.jp/article/toyotakosenkiyo/50/0/50\\_50-6/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/toyotakosenkiyo/50/0/50_50-6/_pdf/-char/ja)
- ・エリック・クリネンバーグ (著), 藤原朝子 (翻訳) 集まる場所が必要だ——孤立を防ぎ、暮らしを守る「開かれた場」の社会学 - 2021/12/25 序章, 社会的インフラが命を救う
- ・社会的インフラのかんたんな意味 weblio 辞書 閲覧日 2022年1月7日
- ・NPO 法人全国こども食堂支援センターむすびえ 閲覧日 2021年12月22日
- ・マックス・ヴェーバー著 1904～1905 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- ・5分でわかるウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 (プロ倫)」要約 <https://vicryptopix.com/protestantism/>
- ・文献ブログ #188 <https://www.nhk.or.jp/bunken-blog/500/367473.html>
- ・川上裕美 2007年1月『見返りを期待しない利他行動における共感の意義 - 奉仕活動の動機から考える』 - 博士 (人間科学) 学位論文 file:///C:/Users/umedaiko/

Downloads/Gaiyo-4369.pdf

- ・「子ども食堂ニコニコごはん」前田道明さん、さかえさんインタビュー記録 日時, 2021年10月28日
- ・なかよしごはん 速水治美さん、あけみさんインタビュー 日時, 2021年7月7日17時～18時
- ・おかださんの台所 岡田常晴さんインタビュー 日時, 2021年2月3日
- ・ほんあい子ども食堂 MOGU 安藤智郎さんインタビュー 日時, 2021年6月17日
- ・速水あけみさんへのインタビュー 日時, 2021年5月15日
- ・なかよし勉強会参加記録 日時, 2020年12月19日

## 【謝辞】

本稿を作成するにあたり、おかださんの台所の岡田常晴さん、ほんあい子ども食堂MOGUの安藤智郎さん、なかよしごはんの速水治美さん、あけみさんの4人の方にはお忙しい中インタビューをさせていただいたことを心より感謝申し上げます。また、快く情報を提供してくださった同ゼミ4年の植野航史くん、藤本涼花さん、3年の成谷世那くんにも心より感謝申し上げます。皆さんの支えがあり、この論文を作成することが出来ました。ありがとうございました。